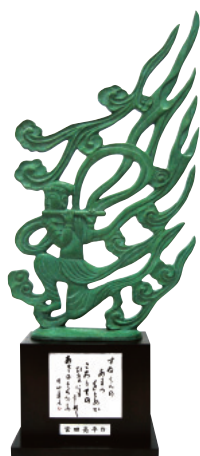
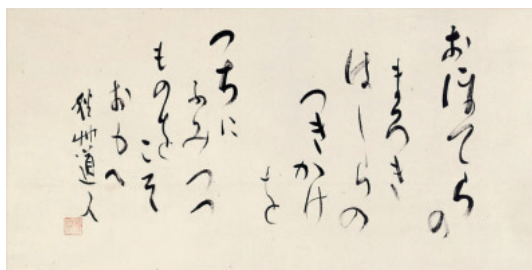


## 第2回 會津八一賞 「現代に生きる書とは」 論文公募

2008年9月



會津八一賞トロフィー  
「天つ乙女」(宮田亮平 作)



會津八一歌書「おほてらの」



濱谷 浩 撮影

### ☆趣 旨☆

全国の若い世代の書の研究者と作家を対象に、第2回「會津八一賞」懸賞学術論文を公募します。この論文公募は、昨年の平成18年が會津八一没後50年にあたり、記念事業の一環として3年ごとの実施する事業としてスタートしました。

八一は早稲田大学に学び、東洋美術史研究の権威として知られていますが、同時にすぐれた歌人であり、書家でもありました。当記念館はこの會津八一の業績を顕彰するために昭和50年に設立され、八一の墨跡、資料を数多く蔵し、市内外の人々の鑑賞に供してきました。

秋艸道人會津八一の書には、形にとらわれない自由な精神の表現が認められます。それは越後の先人良寛にも通じる、破格の書であるとも言えます。もうひとつの特徴は、歌人としての八一の豊かな文学性との響き合いではないでしょうか。いわゆる「書家」の書ではない、全人的な魅力に溢れた書です。八一は奈良、飛鳥の地をこよなく愛していました。その絶唱をおさめた歌集『鹿鳴集』や『寒燈集』は、いまもなお人々の心を惹きつけてやみません。

第2回の論文公募のテーマは「現代に生きる書とは」としました。

このテーマは會津八一に限ったものではありません。またジャンルについても、漢字や仮名書、現代の前衛書を含めて幅広く自由に、この問題について論じていただきたいと思います。文字文化がすべてコンピュータ化されつつある現代において、筆をもって書くということの意義を、もう一度この機会に、問い直していただきたいと考えています。

ふるって全国からすぐれた書論、書の美学が寄せられることを期待しております。

主催：財団法人 會津八一記念館

後援：早稲田大学會津八一記念博物館、新潟日报社  
BSN新潟放送、NHK新潟放送局、共同通信社

## 公募規定

- 1、本賞は東洋美術史家、歌人、書家であった會津八一の没後50周年を記念し、書と文学の交感をテーマに書論および書の美学の分野での若手の自由な研究活動を奨励し、併せて會津八一の業績を今日的に見直す目的で設けられ、名称を「會津八一賞」とする。
- 2、主催および後援  
主催 財団法人會津八一記念館  
後援 新潟日報社、早稲田大学會津八一記念博物館  
BSN新潟放送、NHK新潟放送局、共同通信社
- 3、公募は2008（平成20）年9月22日から開始する。
- 4、公募論文はすべて個人の投稿制とする。  
★ 投稿締め切り 2009（平成21）年12月3日（水） 書留郵送・当日消印も有効
- 5、投稿有資格者 日本の大学院（修士・博士課程）在籍者  
日本の大学卒業もしくは大学院修了者、あるいは民間の研究者も可  
（年齢40歳まで）
- 6、投稿論文の応募方法および書式等については、別記の投稿規定に従う。
- 7、財団法人會津八一記念館の中に論文審査委員会を置く。  
イ）財団法人會津八一記念館は本賞の目的遂行のため、公募をはじめとする実施運営をする。  
ロ）公募論文の審査選考は論文審査委員会の責任と権限において行われる。
- 8、公募論文の審査選考は財団法人會津八一記念館が設ける論文選考委員会の責任と権限において行われ、會津八一賞（最優秀賞）および奨励賞を決める。
- 9、賞 上記の入賞者には下記の賞金等が授与される。  
★會津八一賞 1名 トロフィー「天つ乙女」と賞金 50万円  
★奨励賞 2名以内 賞金各 10万円
- 10、発表 2010（平成22）年1月中旬（予定）、後援の報道機関を通じて報道、および個人宛通知
- 11、授賞式 2010（平成22）年2月上旬の予定、新潟市内の会場にて
- 12、入賞論文は翌年度内に公刊する。
- 13、公刊される論文の著作権は発行者に帰属する。ただし他の出版物への転載等に際しては、執筆者と協議する。

### ◇會津八一賞 学術奨励論文選考委員◇

- 大橋 一章 早稲田大学會津八一記念博物館館長（早稲田大学教授）  
萱 のり子 大阪教育大学教授  
野中 浩俊 新潟大学名誉教授  
神林 恒道 新潟市會津八一記念館館長（立命館大学大学院教授）

## 投稿規定

- 1、論文のテーマは「現代に生きる書とは」。このテーマは會津八一に限ったものではありません。ジャンルについても、漢字や仮名書、現代の前衛書を含めて幅広く自由に、この問題について論じていただきたい。文字文化がすべてコンピュータ化されつつある現代において、筆をもって書くということの意義を、もう一度この機会に、問い直していただきたい。
- 2、字数 400字詰め原稿用紙40～50枚程度（16000字～20000字）
  - \* 本文字数には「注」記を含む
  - \* 参照図版、表等は本文と別に扱う分量は任意、ただし常識の範囲を超えないものとし、その判断は論文選考委員会で行う。
  - \* 本文のほかに、2000字程度の概要を添付する。
- 3、使用言語 日本語
- 4、原稿は完全原稿として提出する。公刊に際し、校正段階での訂正、変更は必要最小限に限る。
- 5、表記は、固有名詞、引用文を除き、常用漢字体・現代かな遣いを使用する。
- 6、原稿は縦書きを原則とし、手書き、ワープロ使用のいずれも可。
  - \* ワープロ使用の場合一書式設定：A4用紙横置き・1段組/文字縦書き/
  - \* 1ページ当たりの字詰めおよび行数は、投稿者の任意でよい。ただし、(2)で指定した字数を超えぬこと。なお、入賞者は別途事務局の指示に従い、入賞原稿を入力したフロッピー・ディスクを提出する。投稿時には添付不要。
- 7、図版、表などを添付する場合、版下としてそのまま使用できる鮮明なものであること
  - \* 図版は出典名を明記すること（出版元、刊行年を含む）
- 8、投稿論文は、既存の学術誌・雑誌などに掲載、刊行されたことのないものに限る
  - \* 学会などでの口頭発表はこの限りではない。
- 9、公刊される入賞論文の編集、割付などは財団法人會津八一記念館の責任において行うものとする。
- 10、投稿締め切り 2009（平成21）年12月3日（水） 当日消印有効
  - \* 投稿原稿は一切返却しませんので、あらかじめご承知おきください。
  - \* 投稿に際し、所定の申込書を添付のうえ、書留郵便でご送付ください。

### 11、原稿送付先と問い合わせ先

會津八一賞事務局 〒951-8101

新潟市中央区西船見町5932

新潟市會津八一記念館内

電話 025(222)7612

ファクス 025(222)7614

mail アドレス aizu-81@athena.ocn.ne.jp

會津八一 人と業績

會津 八一 (あいづ やいち) 明治14年(1881)～昭和31年(1956)



新潟市生まれ。明治 39 年、早稲田大学文学科卒業。新潟県上越市(旧板倉町)の有恒学舎(現在の県立有恒高校)の英語教師に就職。同 41 年 8 月、初めて奈良旅行。同 43 年、早稲田中学校に転任。大正 9 年から昭和 25 年頃まで頻繁に奈良旅行。大正 13 年、歌集『南京新唱』刊行。大正 15 年から同大学で東洋美術史の講座を担当。昭和 6 年に文学部教授に。同 9 年、『法隆寺法起寺法輪寺建立年代の研究』で文学博士に。同 15 年、歌集『鹿鳴集』、17 年、随筆『渾齋随筆』、19 年、歌集『山光集』を刊行。昭和 20 年、空襲により被災し、新潟に帰郷。同 22 年、歌集『寒燈集』、書画図録『遊神帖』を刊行。同 26 年、新潟市名誉市民第 1 号に推される。同年、『會津八一全歌集』を刊行、読売文学賞を受賞。同 28 年、宮中歌会始の召人として臨席。同 31 年に死去。享年 75 歳。

切り取り

會津八一賞・論文公募 申 込 書

◆申込者	氏名	男	職業	
	(よみがな)	女		
住所:	〒( )	年齢	(西暦)	歳
			年 月 日 生	
TEL:	— —	FAX:	— —	
Mailアドレス				
資格:	*いずれかに( )をつけてください			
学歴等	在籍・卒業・修了			
◆応募論文	表題			
頁数	本文	字× 枚( 字 )	参照図版・表等: 有・無	
(字数)	概要	字× 枚( 字)	(有): 枚	
*受付:	年 月 日	*No.		

太線枠内に記入の上、論文に添付し提出してください